

令和5年度愛媛大学入学式

学長式辞

数年ぶりに、少し開放的な気分で桜の花や木々の新緑（みどり）を愛で、高揚感をもって新たな1年の始まりを感じられるようになりました。

この4月に、愛媛大学の学部には1913名の皆さんを、大学院には488名の皆さんをお迎えすることができました。学部、大学院へのご入学、おめでとうございます。愛媛大学を代表して、皆さんを歓迎いたします。

また、保護者の皆様にも、お子様のご入学をお喜び申し上げます。

本日は、ご来賓として、愛媛県の八矢副知事、愛媛大学校友会の高橋会長、愛媛大学経営協議会の委員の方々にご臨席いただいております。厚く、御礼申し上げます。

皆さんが入学される愛媛大学は、文系から理系まで、7つの学部と、大学院として6つの研究科、2つの学環を擁し、1万人近い学生が学ぶ、四国最大の総合大学です。愛媛大学のことを少し詳しく述べますと、研究面では、本学の3つの先端的研究センターが、文部科学省から「全国共同利用・共同研究拠点」に指定されています。この「3」拠点という数は、旧帝大を除くと筑波大学の4拠点に続くものです。また、教育面では、本学の強みの一つである教育改革で、本学の教育企画室が、教育関係の全国共同利用拠点として認定されています。さらに、地域貢献では、日本経済新聞社が全国761の国公立大学を対象に行った「大学の地域貢献度の調査」で、本学は総合ランキングで5位となりました。

皆さんが入学される愛媛大学は、このように、多様な面で確実な力を持つ大学です。皆さんは、この愛媛大学で、自らの将来設計に繋がる勉学、研究に取り組み、実力を付けてください。

愛媛大学は、平成16年に国立大学から国立大学法人に変わり、その後、6年ごとに中期目標期間が設定され、昨年4月からは、「第4期中期目標期間」となっています。

愛媛大学は、「地域を牽引し、グローバルな視野で社会に貢献する教育・研究・社会活動を展開する」というビジョンを掲げており、そのビジョンの下、「第4

期中期目標期間」において本学が目指す3つの方向性を決めました。少し難しいですが、紹介させていただきます。

(1) 少子化、高齢化、地球環境問題の深刻化という中長期的課題に加えて、With/Afterコロナ社会における価値観や社会システムの再構築という新たな課題に、全学を挙げて取り組む。

(2) 大学も社会の変化とともに機能や社会的役割を変容させる必要があることを認識し、組織としてのダイバーシティを推進する。

(3) 全世代対応型の「地域における知の拠点」としての多機能化を図り、Sustainableな社会、すなわち、持続可能な社会、そして、Resilientな地域社会、すなわち、回復力のある地域社会の構築に貢献する。

これら3つが、本学が目指す方向性です。

また、愛媛大学は、スローガンとして、“Challenge for Intelligent Ecosystem”を掲げたいと考えています。Intelligentは、知的、知能的という意味です。“Ecosystem”は、元々「生態系」という意味で、生態系では、植物、動物、微生物、そして私たち人間が、物質やエネルギーを循環させながら共存している状態です。この生態系と同じように、「大学、学生、地域コミュニティ、企業、自治体などの間で、大学の知的活動である研究・技術開発や人材育成、そして、これらの成果である知的財産や資金を循環させながら、地域全体を発展させていく」。このような、地域の知的循環システムの中心を担える大学に変わりたいと考えています。このような大学では、大学に来られる人の年代も、そして、目的も多様になります。20歳代の人にとっても、異なる年代、異なる目的の人と一緒に学ぶことは、大変刺激的な勉学になると思います。

さて、これから2つのことを申し上げますが、最初に、私ども人類が絶対に超えられない条件を確認しておきましょう。それは、私ども人間は、地球という惑星から脱出できず、永遠に地球上に住み続けなければならないということです。

まず、環境問題ですが、昔は、人間の活動は小さいものでした。そのため、人間の活動で例えば有害物質が排出されたとしても、その地域に、いわゆる「公害」が起きただけでした。しかし、いまでは、人間の活動量は桁違いに大きくなり、活動による影響は広範囲に及び、地球上を循環している大気と海洋を介して、地

地球上のすべての人に影響を及ぼします。

現在、地球温暖化は、気象災害の激甚化にも繋がっており、大変深刻な状況です。温暖化を止めるためには、地球上の全住民、そして、特に活動量が大きい国々が協力する必要があります。

次に、ロシアによるウクライナ侵攻を始めとして、世界で起こるさまざまな争いや対立をみていると、人間の愚かさによると思われることが大変多くあります。人種、民族、宗教、文化、歴史などが異なる人々が、私たち人類にとって唯一の地球という惑星の上に住んでいます。この状況で、人種、宗教、歴史などの違いを過大に認識してしまえば、世界の人々は無限に多くの集団に分かれ、それらの集団の間で、本来無用な、凄惨な争いが生じます。

「only one」という「ただ一人の」「特別な存在」という考え方は、自分への誇りや基本的人権の尊重にも繋がる、大切な考え方です。しかし、「only one」のみを強く認識しては、基本的にいまの世界情勢と同じになるのではないのでしょうか。「only one」だけではなく、「with the respect for other people」、すなわち、「他の人への敬意を持ちつつ」が不可欠と思います。大学の中でも、地域でも、日本という社会でも、世界でも、「only one」＋「with the respect for other people」ということを、是非忘れずにいて欲しいと思います。

最後に、愛媛県の出生数は、22歳の皆さんが生まれた2000年が13207人、18歳の皆さんが生まれた2004年が12119人であったのに対し、昨年2022年は7590人で、20年間で、60%に減りました。ちなみに、愛媛県の出生数が最多であったのは、第1次ベビーブームの昭和23年で5万3126人でしたので、18歳の皆さんは、4分の1以下になっています。

皆さんは、人口が急激に減少するという新たな社会を、これまでとは異なった価値観で、ゼロベースから作っていく世代です。多くの困難と苦勞が待っていると思います。しかし、人口が減れば、ひとり1人の人間の「大切さ」だけではなく、「存在感」「発言力」は、大きくなります。

皆さんの知的創造性と発言力によって、身近な地域コミュニティも、社会も変えられます。ただし、そのためには、地域や社会や世界の動きをできるだけ理解し、論理的思考によって、「これからは、このように変わるはずだ」と考える習慣を身につける必要があります。私が卒業した高校の「建学の理想」の一つに、「自

ら調べ、自ら考える」というのがあります。簡単な言葉ですが、いまでも、私にとって貴重な言葉となっています。皆さんも、自分で情報を集め、考え、未来を想像してみてください。

皆さんには、愛媛大学での学びの中で、人類しか持ち得ない「知的創造性」に繋がるさまざまな考え方や知識を修得して欲しいと思います。そして、自分自身の価値を高め、すべてのものが安すぎ、シュリンクしている日本の現状を打破し、活力ある社会の構築に貢献して欲しいとも思います。

終わりに、まだ未確定の要素もありますが、コロナ禍も収束しつつあり、これまでの日常、プラス、コロナ禍で学んだことを活かす生活が始まります。本日、愛媛大学に入学される皆さんが、コロナ禍でこの3年間得られなかった分も取り戻すべく、愛媛大学のさまざまな制度や取組みを活用し、愛媛大学での学びを充実したものとされ、新たな社会で知的創造性を発揮できる人に成長してくれることを期待し、私からの式辞といたします。

令和5年4月6日

愛媛大学長 仁科弘重